

兵庫教育大学 教育・社会調査研究センター2006年度研究プロジェクト報告会報告集
(学内科研様式2に準ずる)

大学と学校教育現場との連携に関する調査
The Research on Partnership between the HUTE and Elementary and Secondary
Schools

研究代表者 教育・社会調査研究センター 協力教員 加治佐 哲也
(プロジェクトメンバー 教育実践コラボレーションセンター準備室長 大辻 裕彦
リエゾンオフィス・プログラム開発コーディネーター 岡田 美紀)

本調査の目的は、本学と学校教育現場との連携協力に関する関係者の意識や希望・期待を知り、今後の連携づくりや教職大学院の設置に生かすことであり、教職大学院へのニーズ調査も兼ねている。調査の対象は、連携協力校、連携協力校を管轄する兵庫県内市町教育委員会、それ以外の兵庫県内市町教育委員会、都道府県・政令指定都市教育委員会であり、各々について調査票が作成された。調査結果は、端的にまとめれば、連携協力校と教育委員会の教職大学院に対する期待は高く、そのための連携構築に前向きであるが、派遣する現職教員の人事管理上の位置づけや修了生の活用方法と処遇については未定のところが多いということである。今後、本学からのこれら関係者への積極的な働きかけが求められる。

キーワード：連携，連携協力校，教職大学院，教育委員会

Key Words : Collaboration, Partnership School, Professional School for Teacher Training, Board of Education

調査(1)

大学と学校教育現場との連携に関する調査【集計】
(連携協力校対象)

調査依頼学校数： 110校
回答学校数： 71校 (回収率：64.5%)

すべて複数回答可

1. 兵庫教育大学では、平成19年度からの新専攻、平成20年度から「教職大学院」による高度な専門職としての教員の養成を具現しようとしています。
この取り組みについてどのように思われますか。
 - 62件(87.3%) 益々多様化し・複雑化する教育現場の問題や課題を解決し、「信頼される学校」にするため是非必要である
 - 9件(12.6%) 現状の学校現場の教員で充分将来を見通した「信頼される学校」を確立することができる
 - その他
 - ・学校現場にいかに活かすか、そのプログラムを学校と構築する必要がある
2. 上記1・ に回答された学校にお聞きします
 - 0件(0.0%) 大学院内での指導だけで十分目的は達成できる
 - 49件(79.0%) 大学院と県教育委員会・各市町村教育委員会等諸機関が協議し、教育現場に即した養成・研修をすることが重要である
 - 36件(58.0%) 連携協力校における実習をふまえて、教師力の向上を図ることが効果的である
 - 0件(0.0%) その他にお考えがありましたらご記入下さい
3. 上記1・ に回答された学校にお聞きします
 - 7件(77.7%) 「より信頼される学校、信頼される教員」の確立に向かうため、益々校内研修を充実させたり、学校評議員制度を活性化させたり、地域コミュニティとの連携を図ったりして、学校経営の改革を図る
 - 6件(66.6%) 校長を中心とした組織マネジメントの充実・効率化を図り、特色ある教育の確立を図ることによって一人一人の教員の資質・能力の向上が図れる
 - 0件(0.0%) その他にお考えがあればお聞かせ下さい
4. 兵庫教育大学では、新専攻及び「教職大学院」の設置を契機として、今後連携協力校との共同研究を考えていますが、このことについてのお考えを聞かせてください
 - 47件(66.2%) 大学の教員と校内研修と同じテーマを設定し理論と実践を通した、本校の特色ある教育が実現できればよい
 - 14件(19.7%) 現在の学校経営の状況では、精神的にも時間的にも共同研究を推進する余裕はない
 - ・市の指定研究テーマがあるため
 - その他にお考えがあればお聞かせ下さい
 - ・現場教職員の事務量が増えるのは好ましくない
 - ・教授等外部講師として招き、指導をあおぎたいが、講師料等が課題である
 - ・ が現状ではあるが、学校力を高めるためにも連携をとって実践研究の歩みをすすめたい
 - ・ が望ましいが、実際には難しい部分もあるので、本校の研究とできるだけ近づいたテーマを設定していただければ助かる
 - ・共同テーマというのは無理があるかもしれないが何かの形での共同研究は可能と考える
 - ・本来は ができればと考えていますが、その前に公立中学校の繁雑さを整理する必要があると思います。本当に毎年毎年忙しくなり教員も慢性疲労の状態です
 - ・ に をつけたいが、校内研修は子どもの成長を願うものであり、学校の主体に任せてほしい
 - ・ に をしましたが、にも をしたいです。様々な教育課題、要望等たくさんありすぎて、学校現場は時間的、人的ゆとりが本当はないのが現状です
 - ・両者ともプラスになる方向で進めていきたい。課題は、要する時間をどれくらい作り出すか
 - ・適応教室として協力できる範囲内ですが
 - ・校内研修のテーマと、大学の教員の方とのニーズがかなり違うのではないかと。支援いただくのはうれしいが、方法等の摺合せが難しいように思う

5. 新専攻並びに「教職大学院」のカリキュラムには、「実習科目(10単位)」の履修がありますが、この「実習科目」は専攻・コースごとにその形態・内容などに違いがあります
そこで、連携協力校として「実習」について貴校のお考えを聞かせてください

15 件(21.1%) 学校経営・運営や教育実践など、本校におけるすべての教育活動にかかわる実習が効果的である

52 件(73.2%) 焦点化した実習が効果的である

その他にお考えがあればお聞かせ下さい

・実習科目が不明なので何とも言えないが、事前に十分な協議が必要である

・2ヶ月(8週)の実習で果たしてどこまでできるのか心配ですが、2から3のテーマに焦点化した方がよいのかとも思いますが

6. 兵庫教育大学では大学院と連携協力校との共同研究の形による実習により、連携協力校の学校経営にもメリットがあることをめざしていますが、貴校のお考えを聞かせてください

実習生は、実習課題やテーマを設定して臨むので、大学では実習校の教育目標や研究テーマとの整合性を十分配慮します

49 件(69.0%) 是非そのような配慮が必要

17 件(23.9%) できればその方がいい

3 件(4.2%) あまり関連づけは気にしなくてもよい

大学教員は、実習生の指導を通して、共同研究的な取り組みをし、実習校の学校経営にも支援するなど、実習校のメリットになるよう配慮します。

57 件(80.2%) 従来、このような取り組みは経験していないので、新鮮で、教職員の意欲づけと資質能力向上にも結びつくだろう

9 件(12.6%) 学校経営上、運営しにくいと思われる

その他のお考えがあればお聞かせ下さい

・やってみないと分からない部分が多くあると考える。できる所から始めるべきと考える

・今の段階では、上記のどちらか判断しにくい

・あくまでも支援を期待します

・上記2つともなりえる。実習校の現状にそくしてということになると思うが、かまえとしては、一番上を意識しておきたい

その他

・本校の特色は、裏山に登り窯があり、地域と協力して丹波焼と「サギソウ」を中心とした総合的な学習である。地域素材を教材へと開発するプロジェクトを強化するため、共同研究を粘り強く推進できることを願います

調査(2)

大学と学校教育現場との連携に関する調査【集計】
(連携協力校所管教育委員会対象)

調査依頼教委数 : 20 教委 (神戸市除く)
回答教委数 : 18 教委 (回収率: 90.0%)

1. 連携協力校で実習することに賛同し、協力していただくことについて

7件(38.8%)積極的に協力する
11件(61.1%)できるだけ協力する
0件(0.0%)その他

2. 連携協力校で実習を行うことで、教育委員会としてのメリットについて(複数回答可)

8件(44.4%)大学の新しい教育情報が常に入手できる
14件(77.7%)連携協力校の活性化が所管の全学校に良い影響を与える
8件(44.4%)校長会・教頭会等各種会議で、教職員の資質・能力の向上について話題が提供される
5件(27.7%)教育委員会としても、大学と共同研究の可能性が出てくる
その他にお考えがあればお聞かせ下さい
・適応教室での子ども達の学習や相談の相手として実践力になる

3. 貴教育委員会又は所管の連携協力校と大学とが共同研究を推進していくとすれば、どのような準備、配慮が必要だとお考えですか。また、兵庫教育大学に対してご要望がありましたらご記入下さい。

- ・学校が推進している研究の支援となること
- ・忙しい学校現場に負担となる内容にならないことを望みます
- ・互いにプラスになるシステムにならないと継続することは難しいと推測します
- ・今のところ具体的なことが思い浮かびませんが、実際に取り組みが始まれば様々な課題が出てくると思います
- ・これから学校や教育委員会が大学と連携を深めていくのは重要なことだと思います。伊丹市においても近隣の大学と連携協定を結んでいますが、兵庫教育大とも連携協定ができればありがたいと思います。さらにいじめ、不登校、学力など学校の課題を解決する上で大学との共同研究には積極的に取り組みたいと思います。どうかテーマで必要があればお声をかけていただきたいと思ひますし、こちらからもご相談できれば相方向の交流になります。また、今回の大学院の公開のように、たとえば教育委員会の指導主事は大学院に入ることが物理的に困難ですが、聴講制度等があれば、テーマによって参加したり、いっしょに大学院の授業づくりにもつながると思ひます
- ・組織としての受け入れ態勢の確立
- ・職員の共通理解
- ・実習者の所属組織(委員会等)の検討など
- ・物理的な受け入れ準備(座席配置、ロッカー、靴箱等、給食の手配など)
- ・兵教大として学級の研究支援、職員の意識向上等、学校支援の視点を共通認識していただき、学校にとってもよい連携となることを期待します
- ・連携協力校の校長だけではなく、所属職員の理解を十分得ること。また所属職員の課題解決に積極的に取り組もうとする土壌を醸成しておくことが必要
(地教委・学校の仕事)
- ・大学院生の人間性や知識等、学校の一員として取り組もうとする態度(兵教大の仕事)
- ・幼児教育については無理でしょうね
- ・共同研究の内容が協力校の経営方針及び研究課題に一致していること
- ・協力校の教職員の負担が過重にならないこと
- ・貴大学と教育委員会の間で、情報交換ができる場や資料提供等の必要があろう
- ・本市の研修会等において日頃からご協力をいただきありがとうございます。ただし、講師先生に個人的にお世話になっているようなところもありますので、このようにチームとして貴大学と、小中学校を含めた本教育委員会との連携が期待できることは、有意義な試みに思ひます
- ・受け入れの連携協力校がメリットを感じられるようおねがいしたいと考えております。よろしくおねがいします
- ・適応教室と連携に向けての準備、配慮について
- ・子ども理解についての定期的な研修を受ける
カウンセリングの役割について
適応教室の役割について
学生ボランティア(Pal ふれんど)の役割について
- ・定期的な事例研究会の開催
- ・守秘義務等、服務について知る
- ・共同研究テーマについて(大学への要望)

適応教室入級生やひきこもり児童生徒への学習支援のあり方

特別な支援を必要とする児童生徒への学習・生活への支援のあり方

- ・連携協力校の教職員が、自校の教育の向上のために、連携してよかったと思えるように学校の課題を共有していただくとともに質の高い情報を提供していただきたい。また、学校がどのような形で連携を望んでいるのかを事前に知っていただくことも必要だと考えます
- ・連携協力校が推進する研究と実習生が推進する研究とがうまく連動し合い、互いに効果が得られる様に細部にわたる調整・連絡が必要と考える
- ・特にありません
- ・実習に関わる連携協力校との密接な連絡
- ・連携協力校の学校課題の把握と共に実習生にとっても学校にとっても双方にメリットがあるような焦点化した内容が望まれる
- ・学校現場は多忙を極めているため実習生が主体的に研修するスタンスが必要
- ・今のところ連携協力校と大学担当教員の係わり方の具体が見えないので、できるだけ早く教えてほしい

大学と学校教育現場との連携に関する調査【集計】
(連携協力校所管以外教育委員会対象)

調査依頼教委数 : 20 教委
回答教委数 : 7 教委 (回収率 : 35.0%)

1. 貴教育委員会では、教職員の資質・能力の向上についてどのような取り組みをされていますか。取組名とその概要などをお聞かせ下さい。
 - ・初任者研修、小中連携
 - ・教職員研修事業・・・専門分野の講師を招いての後援会、研修会の開催
 - ・教育研究グループ支援事業・・・3～5Gの研究グループに対して研究補助金を出し、研究を支援する
 - ・朝来市教育研修所を中心とした研修の推進
 - ・学校教育の基本指針として、「姫路の教育指針」を提示し、校園長会や学校訪問等で徹底を図っている
 - ・管理職研修として、全市校園長会、校長研修会、教頭等研修会を実施している。研修内容として、危機管理への事例研修、生徒指導研修、人権研修、法令研修、企業見学等を行い、資質の向上を図っている
 - ・他の教職員も同様の研修をしている
 - ・教職員自主研修として、教育研究所で研修講座及び研究班を設けている
 - ・町教育研修所での各部会での研修、毎月の校長会での教育長による指導
 - ・教頭全員に校園長の場でレポートを伴う研究発表をさせている
 - ・全教職員に年3回の町教委としての責任研修をしている
 - ・年間を通して1回は校内公開授業をやらせている
 - ・5年以内に得意な分野を作る努力をと指導している
 - ・教員の資質向上については「研修」が不可欠である。しかし校内研修なるものは本筋ではなく、教師一人ひとりのためたゆまざる個人研修が基本であると考えている
兵庫県神崎郡は3町で構成され、学校数も全28校と少ないが、兵教大院の修了生が16人いる。兵教大派遣を重視している
2. 兵庫教育大学の平成19年度に設置する「新専攻」及び平成20年度開設をめざしている「教職大学院」の取り組みをどのように思われますか。当てはまるものに印を記入下さい。(複数回答可)
 - 6件(85.7%)現在の多様化・複雑化している教育問題・課題を解決し、さらに教育改革を推し進めていくために重要な取り組みであると思われる
 - 6件(85.7%)従来の大学院のように、研究中心ではなく、教育委員会や連携協力校を設定し、実習を重視していることは注目できる
 - 1件(14.2%)連携協力校の学校経営、教育活動推進の充実に役立つと思われる
 - 4件(57.1%)大学と教育現場とが共同研究しようという新しい取り組みを考えていることに注目したい
 - 0件(0.0%)本教育委員会所管の学校にも連携協力校を設定したい
 - ・希望校があれば
 - ・検討中
 - 0件(0.0%)その他お考えがあればお聞かせ下さい
3. 兵庫教育大学に対して、ご意見・ご要望などがありましたらご記入下さい。
 - ・企業家、一流のスポーツ選手・芸術家やその分野のトップを極めた人たちの話を直接聞く機会を設けてはと思う(子どもたちは、先生の知識・技術よりも“人間的魅力”に教わることが多い)
 - ・今の、いやこれからの時代も、昔も一緒“人間性”を磨くことだと思います
 - ・教職大学院をめざし、学校指導職専攻科を設置されているようですが、既にその目的は達成されている。本郡3町のうち教育長2名、学校長2名、教頭2名が兵教大院修了生である。なお、教諭も神戸大学と結抗する状況である。神戸大卒は教育長0、校長1、教頭0である

調査(3)

大学と学校教育現場との連携に関する調査【集計】
(新専攻のプログラムと運営方法に関する調査)

都道府県教委、政令指定都市教委(GP成果報告会参加教委)対象

調査依頼教委数 : 9 教委

回答教委数 : 6 教委 (回収率 : 66.6%)

1. カリキュラムと授業方法について

(1) 共通基礎科目について

(構成と種類の適切さ)

本学新専攻の共通基礎科目は、上記の共通科目のねらいを達成するのに適切な構成と種類になっていると思われませんか。

- | | | | |
|---|-----------|-----|-------|
| a | 全くそう思う | (5) | 83.3% |
| b | 少しそう思う | (1) | 16.7% |
| c | あまりそう思わない | (0) | 0.0% |
| d | 全くそう思わない | (0) | 0.0% |

(追加・削除の科目・内容)

でcまたはdと回答した方におうかがいします。

共通基礎科目として、追加すべき内容や科目、あるいは削除すべき内容や科目としてどのようなものが考えられますか。

- ・ 1 追加すべき科目や内容
- ・ 2 削除すべき科目や内容

(当日の公開授業に対する感想)

報告会で行われた共通基礎科目の公開授業の中で、参観していただいた科目は次のどちらですか。

- | | | | |
|---|---------------------------------|-----|-------|
| a | 児童生徒の問題行動に関する事例研究A(現職教員対象) | (1) | 16.7% |
| b | 教員のための学校組織マネジメントの実践演習B(その他学生対象) | (5) | 83.3% |
| c | 両方の科目 | (0) | 0.0% |

その授業についてどのような印象をお持ちになりましたか。ご自由にお書き下さい。

- ・ 短縮された時間内での授業だったので、公正な批評は難しい。やはり、現職教員対象の場合と異なり、職員会でのプレゼンという1つの課題についても多くの付加条件があること(財政面、安全面 etc)まで考えが及ばないのは当然であるが、活発な議論と的確な助言を通して見落としに気づいていくことは大切だと感じた。どちらかという教職経験者に受けさせたい
- ・ 授業の単元プランを作成していたが、ストレートマスターの学生には、教科・領域等の幅広いつながり等が分かる、すぐれた実践に多く触れる機会を設ける必要を感じた。実務家教員の質の向上が、大学院の授業の質の向上に直結すると思った
- ・ 現職教員が対象であるなら、グループ討議もかなり違った内容となり得ると思います。ただ、現場経験のない学生なら「学習内容」の企画になりがちでしょうし、この授業の目的が、なかなかピンとこないのでは?と思いました
- ・ 演習形式であったので、能動的な授業であった。しかし、演習の課題は、国際理解教育としての授業の企画であった。学生対象であったため、もしくは時間のつごうのためか、非常に表面的な取り組みであるように思われた。特に総合については、児童生徒に身につけさせたい資質や能力面でのねらいを踏まえずに活動内容のみ企画するようになってしまった。もちろんマネジメント(コーディネート)が主であるのなら仕方ないと思うし、これからの展開によっては違う印象があると思います
- ・ 教員として必要とされる企画力を養う良い授業だと思いました。また、指導者も学校現場の経験者があたっておられたため、的確で具体的なアドバイスが行われていたと思います
- ・ 校種の異なる現職教員が、インシデント・プロセス法による事例研究を小グループで行うことは、有効だと思われた(チーム支援シートは参考にしたい)

(その他要望・改善意見)

その他、共通基礎科目についてお気づきのことをご自由にお書き下さい。

- ・ マネジメントで言えば、様々な手法や基本的な理論、考え方など、役に立つかもしれないと思います。ただ、現職教員とその経験のない学生で演習を進めるには、テーマ設定をかなり考える必要があるのではないのでしょうか

(2) 学校指導職専攻の専門科目について

(構成と種類の適切さ)

学校指導職専攻の専門科目は、上記の学校指導職専攻のねらいを達成するのに適切な構成と種類になっていると思われませんか。

- | | | | |
|---|-----------|-----|-------|
| a | 全くそう思う | (5) | 83.3% |
| b | 少しそう思う | (1) | 16.7% |
| c | あまりそう思わない | (0) | 0.0% |
| d | 全くそう思わない | (0) | 0.0% |

(追加・削除の科目・内容)

でcまたはdと回答した方におうかがいします。

学校指導職専攻の専門科目として、追加すべき内容や科目、あるいは削除すべき内容や科目としてどのようなものが考えられますか。

- ・ 1 追加すべき科目や内容
- ・ 2 削除すべき科目や内容

(当日の公開授業に対する感想)

報告会では学校指導職専攻の公開授業科目として「教職員職能開発と研修プログラムの開発」が行われましたが、これを参観されましたでしょうか。参観されておれば、その授業についての印象をご自由にお書き下さい。

- ・ 発表をもう少し詳しく聞きたかった。「研修のあり方」については教育委員会としても見直しをしていかなければならないと考えている。引き続きこの専攻のカリキュラムと成果に注目していきたい
- ・ 校内研修は、職員の資質向上のために重要である。一つ一つのプログラム開発とともに、年間にどのようなスケジュールでどのような内容のものを扱うか、という視点での提案も必要だと思う
- ・ 各グループとも熱心に議論されていて、実際に現場であり得る演習ならばこそだと思いました。気になったのは、Bプランで自校の実際の例を用いるとのことでしたが、生々しくなるかもしれないことと現に対応した教師がいることを考えるとかなり慎重であるべきと考えます。また、ロープレをくり返すのではなく、モデル的なやりとりを考えたりすることも必要と思いました。きっと実際の演習では、このあたりは助言があるのでしょうか・・・
- ・ 現職教員による授業だったため、レベルの高い発表であった。非常に実践的な授業であると感じた
- ・ 校種の異なる校内研修の実際を、報告をもとにして小グループで検討し、教員の職能向上につながる研修のあり方を明らかにすることは大変有意義であった

(その他要望・改善意見)

その他、学校指導職専攻の専門科目についてお気づきのことをご自由にお書き下さい。

- ・ 教職員のヘルス・ケアに係わる科目は必要ないでしょうか？学校の管理職や教育委員会の専門職員が果たす役割は大きくなっていると思われませんか

(3) 教育実践高度化専攻授業実践リーダーコースの専門科目について

(構成と種類の適切さ)

授業実践リーダーコースの専門科目は、上記の授業実践リーダーコースのねらいを達成するのに適切な構成と種類になっていると思われませんか。

- | | | | |
|---|-----------|-----|-------|
| a | 全くそう思う | (5) | 83.3% |
| b | 少しそう思う | (1) | 16.7% |
| c | あまりそう思わない | (0) | 0.0% |
| d | 全くそう思わない | (0) | 0.0% |

(追加・削除の科目・内容)

でcまたはdと回答した方におうかがいします。

授業実践リーダーコースの専門科目として、追加すべき内容や科目、あるいは削除すべき内容や科目としてどのようなものが考えられますか。

- ・ 1 追加すべき科目や内容
- ・ 2 削除すべき科目や内容

(当日の公開授業に対する感想)

報告会では授業実践リーダーコースの公開授業科目として「高度な授業実践における授業の設計、展開、分析・評価及びその改善」が行われましたが、これを参観されましたでしょうか。参観されておれば、その授業についての印象をご自由にお書き下さい。

- ・このような形式の授業を求めています。期待しています
- ・部分的にしか参加していないが、授業力向上のための校内研修としても活用できるスタイルであったように感じました

(その他要望・改善意見)

その他、授業実践リーダーコースの専門科目についてお気づきのことをご自由にお書き下さい。

- ・授業及び校内研究会の改善に必ずや役立つものと思われる

(4)教育実践高度化専攻心の教育実践コースの専門科目について

(構成と種類の適切さ)

心の教育実践コースの専門科目は、上記の心の教育実践コースのねらいを達成するのに適切な構成と種類になっていると思われませんか。

- | | |
|-------------|-----------|
| a 全くそう思う | (4) 66.7% |
| b 少しそう思う | (1) 16.7% |
| c あまりそう思わない | (0) 0.0% |
| d 全くそう思わない | (0) 0.0% |

(追加・削除の科目・内容)

でcまたはdと回答した方におうかがいします。

心の教育実践コースの専門科目として、追加すべき内容や科目、あるいは削除すべき内容や科目としてどのようなものが考えられますか。

- ・1 追加すべき科目や内容
- ・2 削除すべき科目や内容

(当日の公開授業に対する感想)

報告会では心の教育実践コースの公開授業科目として「教育相談の理論と技能開発」が行われましたが、これを参観されましたでしょうか。参観されておれば、その授業についての印象をご自由にお書き下さい。

(その他要望・改善意見)

その他、心の教育実践コースの専門科目についてお気づきのことをご自由にお書き下さい。

(5)教育実践高度化専攻小学校教員養成特別コースの専門科目について

(構成と種類の適切さ)

小学校教員養成特別コースの専門科目は、上記の小学校教員養成特別コースのねらいを達成するのに適切な構成と種類になっていると思われませんか。

- | | |
|-------------|-----------|
| a 全くそう思う | (3) 50.0% |
| b 少しそう思う | (3) 50.0% |
| c あまりそう思わない | (0) 0.0% |
| d 全くそう思わない | (0) 0.0% |

(追加・削除の科目・内容)

でcまたはdと回答した方におうかがいします。

小学校教員養成特別コースの専門科目として、追加すべき内容や科目、あるいは削除すべき内容や科目としてどのようなものが考えられますか。

- ・1 追加すべき科目や内容
- ・2 削除すべき科目や内容

(その他要望・改善意見)

その他、小学校教員養成特別コースの専門科目についてお気づきのことをご自由にお書き下さい。
 ・中学校教育を理解し、見通した実践ができるよう中学校教育の概要を理解する科目は必要ないでしょうか

(6)実習科目

(構成と種類の適切さ)

新専攻のカリキュラムでは、学校指導職専攻と教育実践高度化専攻3コースのそれぞれについていくつの実習科目が設けられています。それらの実習科目は、上記の各専攻・コースのねらいを達成するのに適切な内容と方法になっていると思われませんか。

- | | | | |
|---|-----------|-----|-------|
| a | 全くそう思う | (4) | 66.7% |
| b | 少しそう思う | (2) | 33.3% |
| c | あまりそう思わない | (0) | 0.0% |
| d | 全くそう思わない | (0) | 0.0% |

(追加科目・内容)

でcまたはdと回答した方におうかがいします。
実習科目として、追加すべき科目、あるいは削除すべき科目としてどのようなものが考えられますか。

- 1 追加すべき実習科目
- 2 削除すべき実習科目

(当日の公開授業に対する感想)

報告会では小学校教員養成特別コースの公開授業科目として「実地研究リフレクションセミナー」が行われましたが、これを参観されましたでしょうか。参観されておれば、その授業についての印象をご自由にお書き下さい。

- ・学部生で始めて、実習に行った者に対して有効な内容であるように思います

(現職教員の実習校)

現職教員の実習校の設定の仕方についておうかがいします。現職教員の实習は、いずれの専攻・コースにおいても、原則として現任校で行うことになっていますが、その他の学校を設定することも考えられます。次の中から、貴教育委員会のお考えに最も近いものをお選び下さい。

- | | | | |
|---|--|-----|-------|
| a | 現任校で行うべきである | (1) | 16.7% |
| b | 教育委員会の派遣している複数教員の現任校を相互に交換して実習校とすべきである。 | (0) | 0.0% |
| c | 教育委員会管轄の学校のなかで、優れた研究や実践を行っている学校で行うべきである。 | (1) | 16.7% |
| d | 大学の近隣府県の学校で行うべきである。 | (3) | 50.0% |
| e | その他 | | |
- ・状況によるが、現任校で行うことに十分な周囲の理解が得られるか危惧します
 - ・実習のねらいが達成されると考えられる学校で行うべきだと考える(現任校にこだわらなくてよい)

(7)カリキュラム全体について

カリキュラムは、全体として、新専攻および教職大学院のねらいを達成するのに適切 な構成と種類になっていると思われませんか。

- | | | | |
|---|-----------|-----|-------|
| a | 全くそう思う | (3) | 50.0% |
| b | 少しそう思う | (2) | 33.3% |
| c | あまりそう思わない | (0) | 0.0% |
| d | 全くそう思わない | (0) | 0.0% |

(その他要望・改善意見)

カリキュラム全体についてお気づきのことをご自由にお書き下さい。

- ・幅広い分野においての講義等が設定され充実している反面、ある事柄等について“深める”ということが十分にできないのではないかと心配します
- ・学校指導職専攻のフィールドワーク分野、教育行政改善プランの開発と教育行政専門職インターンシップの内容、制度的にうまく運営できるのかということに興味があります。先進的な取り組みとその成果に期待しています
- ・現段階においては、充分系統的なカリキュラムとなっていると考えます。今後実践される中で、改善を図るべきと考えます。なお、受講対象者については、現職とストレートマスターを区別した方がよい者もあると思いますが、できるだけ混在させ、新しい考え方に現職教員が触れる機会を多くした方が活性化するのではないかと考えます

2. 学生の選抜方法

新専攻の学校指導職専攻と教育実践高度化専攻3コースはそれぞれ、「兵庫教育大学新専攻案内」(P26)に記したような学生の選抜方法をとっています。これについてのご意見を自由にお書き下さい。

- ・教職につきながら(実際に勤務しながら)より専門的な知識・スキルを学ぶ必要もあると思います。その意味で夜間コースの拡充などがあればよいと思います(選抜方法に異論はありません)
- ・授業実践リーダーコース、心の教育実践コースは、教職経験者は、口述試験のみであるが、入学後の学習を考えると、必要な専門知識(基礎的なもの)を問う筆記試験を受験者に課してもよいと思う

3. ニーズと派遣方法の在り方

(1) (希望する専攻・コース)

貴教育委員会管内の学校の教職員は、どの専攻・コースを希望する人が多いと思われますか。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|-----------|
| a 学校指導職専攻 | (3) 50.0% |
| b 教育実践高度化専攻授業実践リーダーコース | (4) 66.7% |
| c 教育実践高度化専攻心の教育実践コース | (1) 16.7% |
| d 新専攻ではない既設の専攻・コース | (0) 0.0% |
| e 特になし | (0) 0.0% |

(2) (ニーズの高い高度専門職)

「兵庫教育大学新専攻案内」にありますように、学校指導職専攻では「学校経営のリーダー」、教育実践高度化専攻授業実践リーダーコースでは「授業改善を推進するミドルリーダー」、教育実践高度化専攻心の教育実践コースでは「心の教育を推進するミドルリーダー」、そして教育実践高度化専攻小学校教員養成特別コースでは「学校づくりの有力な一員となる新人教員」を養成します。

貴教育委員会では、これらのうち、とくにどの人材に対する必要性が高いですか。

(複数回答可)

- | | |
|----------------------|-----------|
| a 学校経営のリーダー | (4) 66.7% |
| b 授業改善を推進するミドルリーダー | (4) 66.7% |
| c 心の教育を推進するミドルリーダー | (3) 50.0% |
| d 学校づくりの有力な一員となる新人教員 | (3) 50.0% |
| e その他 | (0) 0.0% |
| f 特になし | (0) 0.0% |

(3) (大学院派遣を人事管理と教員の職能開発に位置づけること)

貴教育委員会では、今後、特定の専攻・コースへ現職教員を指名して派遣する考えはあるでしょうか。(すでに学校指導職専攻について、ある県と市は校長、教頭、指導主事の候補者や現職者を指名して派遣しています。)

- | | |
|--|-----------|
| a ある | (1) 16.7% |
| b ない | (2) 33.3% |
| c その他 | |
| ・現時点では | |
| ・検討の可能性はあります | |
| ・現段階で未定 | |
| ・現在、学校の教育力向上のための総合プランを検討しており、その中で議論されることとなると考えています | |

で「aある」と回答した方におうかがいします。

それは、どの専攻・コースへの派遣ですか。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|-----------|
| a 学校指導職専攻 | (1) 16.7% |
| b 教育実践高度化専攻授業実践リーダーコース | (0) 0.0% |
| c 教育実践高度化専攻心の教育実践コース | (0) 0.0% |
| d その他 | (1) 16.7% |
| ・決まっていません | |

4. 修了生の処遇の在り方

(1) (修了生の処遇：現職教員以外の学生)

貴教育委員会では、教職経験を有しない教職大学院の修了者に対して、次のような措置を今後講ずる可能性がおりでしょうか。(複数回答可)

- | | | | |
|---|--|-----|-------|
| a | 大学院入学前または大学院在学中に貴教育委員会の教員採用試験に合格した者に対して、「採用候補者名簿」への登載期間を修了年次まで延長すること | (0) | 0.0% |
| b | 教員選考試験の一次試験の免除 | (0) | 0.0% |
| c | 法令が改正された場合、初任者研修の免除 | (0) | 0.0% |
| d | 給与上の優遇措置 | (1) | 16.7% |
| e | その他 | | |
- ・決まっています
 - ・今後検討予定
 - ・大学院入学前に合格し、辞退届を出して、大学院に進学した者には、2年後に特別採用試験の受験資格を与える
 - ・今後、検討を行いたいと考えています
 - ・今後検討

(2) (修了生の処遇：現職教員)

貴教育委員会では、貴教育委員会管内の学校に籍をおく教員のうち教職大学院の修了者に対して、次のような措置を今後講ずる可能性がおりでしょうか。(複数回答可)

- | | | | |
|---|-------------------------|-----|--------|
| a | 法令が改正された場合、10年経験者研修の免除 | (0) | 0.0% |
| b | 給与上の優遇措置 | (0) | 0.0% |
| c | 教頭職選考試験の一次試験の免除 | (0) | 0.0% |
| d | 「主幹職」などミドルリーダー的職位への優先登用 | (0) | 0.0% |
| e | その他 | (6) | 100.0% |
- ・決まっています
 - ・今後検討予定
 - ・検討していない
 - ・検討を始めるところである
 - ・今後、検討を行いたいと考えています
 - ・今後検討

大学と学校教育現場との連携に関する調査【集計】
(新専攻のプログラムと運営方法に関する調査)

都道府県教委、政令指定都市教委(GP成果報告会不参加教委)対象

調査依頼教委数 : 52 教委

回答教委数 : 20 教委 (回収率 : 38.5%)

1. ニーズと派遣方法の在り方

(1) (希望する専攻・コース)

貴教育委員会管内の学校の教職員は、どの専攻・コースを希望する人が多いと思われますか。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|------------|
| a 学校指導職専攻 | (7) 35.0% |
| b 教育実践高度化専攻授業実践リーダーコース | (13) 65.0% |
| c 教育実践高度化専攻心の教育実践コース | (12) 60.0% |
| d 新専攻ではない既設の専攻・コース | (5) 25.0% |
| e 特になし | (1) 5.0% |

(2) (ニーズの高い高度専門職)

「兵庫教育大学新専攻案内」にありますように、学校指導職専攻では「学校経営のリーダー」、教育実践高度化専攻授業実践リーダーコースでは「授業改善を推進するミドルリーダー」、教育実践高度化専攻心の教育実践コースでは「心の教育を推進するミドルリーダー」、そして教育実践高度化専攻小学校教員養成特別コースでは「学校づくりの有力な一員となる新人教員」を養成します。

貴教育委員会では、これらのうち、とくにどの人材に対する必要性が高いですか。

(複数回答可)

- | | |
|------------------------|------------|
| a 学校経営のリーダー | (10) 50.0% |
| b 授業改善を推進するミドルリーダー | (14) 70.0% |
| c 心の教育を推進するミドルリーダー | (10) 50.0% |
| d 学校づくりの有力な一員となる新人教員 | (5) 25.0% |
| e その他 | |
| ・全ての領域の必要性が高い | |
| ・いずれについても必要な人材であると考えます | |
| f 特になし | (0) 0.0% |

(3) (大学院派遣を人事管理と教員の職能開発に位置づけること)

貴教育委員会では、今後、特定の専攻・コースへ現職教員を指名して派遣する考えはあるでしょうか。(すでに学校指導職専攻について、ある県と市は校長、教頭、指導主事の候補者や現職者を指名して派遣しています。)

- | | |
|--------------|------------|
| a ある | (2) 10.0% |
| b ない | (13) 65.0% |
| c その他 | |
| ・未定 | |
| ・検討中 | |
| ・協議中 | |
| ・今後、検討の必要がある | |
| ・今後検討 | |

で「aある」と回答した方におうかがいします。
それは、どの専攻・コースへの派遣ですか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|----------|
| a 学校指導職専攻 | (1) 5.0% |
| b 教育実践高度化専攻授業実践リーダーコース | (0) 0.0% |
| c 教育実践高度化専攻心の教育実践コース | (0) 0.0% |
| d その他 | |
| ・特別支援教育コーディネーター養成(既に派遣中) | |

2. 学生の選抜方法

新専攻の学校指導職専攻と教育実践高度化専攻3コースはそれぞれ、「兵庫教育大学新専攻案内」(P 26)に記したような学生の選抜方法をとっています。これについてのご意見を自由にお書き下さい。

- ・派遣者が研究課題を意識化する上でも、適切な選抜方法と考える
- ・現職の教職員について、筆記試験を免除するなど、一定の優遇措置がとられていることは、現職の教職員の受験を促すにあたり、効果的であると考え
- ・学校指導職専攻は、小論文と口述試験だけであるが、教育実践高度化専攻も、口述試験だけでなく、小論文を課してよいのではないかと。こういったことを学び、研究していきたいのか、卒業後はこういったことを行いたいのか等聞くことで基礎力は把握できると考える
- ・要件、入試方法ともに現状を考慮した選抜方法をとっていると思います
- ・選抜方法については、特にございません
- ・小論文や口述試験の出題内容によるところが大きいですが、選抜方法としては、現職とそうでない受験者に対してそれぞれ適切な課題を設定していると思います
- ・よいと思う
- ・現場あるいは、行政においての活動等についての他者からの評価も取り入れていく必要がある。真のリーダーとなり得る人物であるのかという人物についての評価も重要になるのではないかと。自己主張が強いものが評価をされることが多いが、集団をまとめ上げるにはそれだけでは難しい

3. カリキュラムと授業について

カリキュラムと授業についてお気づきのことを、ご自由にお書き下さい。

- ・ワークショップやケーススタディ等の実践的内容が多く、現場のニーズに応えることのできる内容であると感じる
- ・理論と実践の乖離が課題とされている中、研究者と実務者が協働して教育課程を編成、現場と直結した授業内容が特色として掲げられている点、期待するところ大きい
- ・教師の基本的な資質として、活かす力、聴く力、説明責任を果たすこと、人の思いを受けとめる力が必要。この意味で、すべての授業でディスカッション・プレゼンテーションが重視されていることは、期待するところ大きい
- ・全体的に実践的科目名、内容になっている
- ・学校指導職専攻の科目について、ゲストスピーカーを取り入れるなど実践的なことを学ぶことができるように工夫されている。一方で科目によってはかなりボリュームがあるように見受けられ、表面的な部分しか理解できないのではないかと思う科目もある
- ・学校指導職専攻で設けられている内容は適切だと考えており、かなりの成果が期待できている
- ・心の教育実践コースは、単に理論の学習だけでなく、活動・実践プログラムの開発、プラン作成等取り入れられ、企画力、実践力の育成に成果が期待できている
- ・実習が8週間の長期にいたることから、実習の期間をどこに設定すべきか、実習校の実情も十分勘案する必要がある
- ・現場での実践力に常に軸を置いたオーセンティックな内容に魅力を感じる
- ・各コース、特色あるものになっていると思います
- ・研修生を派遣する学校側の立場からは、大学院への2年間は厳しい。カリキュラムの授業実習を2年目に現任校で行い、長期休業中にスクーリングで専門科目のまとめ取りをおこないことはできないか。研修生の負担は大きいですが、学校長や市教委としては、派遣しやすくなる。学校現場に根差した実践的な研修が増える事は、望ましい方向性だと思います
- ・大学と学校、教育委員会をうまく融合してカリキュラムを設定していると思います
- ・現在の教育的課題を中心に取り上げ、興味深い内容になっていると思います
- ・現任校での学校改善プランの作成など、大学での研究を実地に検証されようとする指導は、教育現場での実践力育成につながるものと考え。今後もこの方針を推進していただきたい
- ・実習も取り入れ、それぞれのコースの目標に沿った内容が盛り込まれていて良いと思う

4. 現職教員の実習校について

現職教員の实習校の設定の仕方についておうかがいします。現職教員の实習は、いずれの専攻・コースにおいても、原則として現任校で行うことになっていますが、その他の学校を設定することも考えられます。次の中から、貴教育委員会のお考えに最も近いものをお選び下さい。

- | | | |
|---|--|------------|
| a | 現任校で行うべきである | (11) 55.0% |
| b | 教育委員会の派遣している複数教員の現任校を相互に交換して実習校とすべきである。 | (1) 5.0% |
| c | 教育委員会管轄の学校のなかで、優れた研究や実践を行っている学校で行うべきである。 | (0) 0.0% |
| d | 大学の近隣府県の学校で行うべきである。 | (3) 15.0% |

- e その他
- ・大学指導が行き届き、連携や協力関係にある現任校以外の学校
 - ・所属自治体以外の学校の経験を積む機会となる (b回答)
 - ・協議中
 - ・大学側の意向を十分に理解した学校等で行うべきであると考えます
 - ・aを基本としながらも、本人の希望によりdの方法を選択する
 - ・今後検討

5. 修了生の処遇の在り方

(1) (修了生の処遇：現職教員以外の学生)

貴教育委員会では、教職経験を有しない教職大学院の修了者に対して、次のような措置を今後講ずる可能性がおりでしょうか。(複数回答可)

- a 大学院入学前または大学院在学中に貴教育委員会の教員採用試験に合格した者に対して、「採用候補者名簿」への登載期間を修了年次まで延長すること (0) 0.0%
- b 教員選考試験の一次試験の免除 (0) 0.0%
- c 法令が改正された場合、初任者研修の免除 (0) 0.0%
- d 給与上の優遇措置 (0) 0.0%
- e その他
- ・現在のところ、特別な処遇は考えていない
 - ・未定
 - ・検討中
 - ・修了生の処遇については、現段階では、それぞれの項目についてまだ検討していない段階であり、今後の検討課題であると考え
 - ・特に予定なし
 - ・今のところ特に考えてはいない
 - ・現段階では不明
 - ・未定、今後検討します
 - ・教育センターでは判断できない
 - ・まだ検討していない
 - ・今後の検討課題である
 - ・今後検討

(2) (修了生の処遇：現職教員)

貴教育委員会では、貴教育委員会管内の学校に籍をおく教員のうち教職大学院の修了者に対して、次のような措置を今後講ずる可能性がおりでしょうか。(複数回答可)

- a 法令が改正された場合、10年経験者研修の免除 (1) 5.0%
- b 給与上の優遇措置 (1) 5.0%
- c 教頭職選考試験の一次試験の免除 (0) 0.0%
- d 「主幹職」などミドルリーダー的職位への優先登用 (1) 5.0%
- e その他
- ・現在のところ、特別な処遇は考えていない
 - ・未定
 - ・管理職の専攻を行う際の一要素とする
 - ・修了生の処遇については、現段階では、それぞれの項目についてまだ検討していない段階であり、今後の検討課題であると考え
 - ・特に予定なし
 - ・今のところ特に考えてはいない
 - ・現段階では不明
 - ・未定、今後検討します
 - ・b、c、dについては教育センターで判断できない
 - ・まだ検討していない
 - ・今後の検討課題である
 - ・今後検討

大学と学校教育現場との 連携に関する調査

研究代表者 加治佐 哲也

(プロジェクトメンバー 大辻 裕彦 岡田 美紀)

調査の種類と全体構成

- 調査(1) 連携協力校(110校)対象 回収率64.5%
- 調査(2) 兵庫県内市町教育委員会(40教委)対象
 - ・連携協力校所管教育委員会(20教委) 回収率90.0%
 - ・連携協力校所管以外教育委員会(20教委) 回収率35.0%
- 調査(3) 都道府県・政令指定都市教育委員会(61教委)対象
 - ・教員養成GP成果報告会参加教育委員会(9教委) 回収率66.6%
 - ・ // 不参加教育委員会(52教委) 回収率38.5%

* 神戸市教委除く
- 調査表は、12月～1月にかけて手渡しもしくは郵送にて配付。
回収は全て郵送。

- 大学と学校教育現場との連携に関する調査(1) - (連携協力校を通じた学校現場の新専攻・教職大学院に対する受け止め)

1.新専攻・教職大学院のねらいや取り組みについて

- 「信頼される学校」を構築していくため、高度な専門職としての資質・能力をもつ教員が必要である・・・89%
- 「信頼される学校」は現在の教職員の力量で充分構築できる・・・13%

2.実習を契機として、大学と連携協力校との「共同研究」について

- 理論と実践を踏まえた「特色ある教育」の実現が可能になる・・・67%
- 現在の学校現場は、学校経営や教育実践の諸問題が山積し、精神的・時間的に「共同研究」を推進する余裕がない・・・20%
- その他・・・17%

- 大学と学校教育現場との連携に関する調査(2) - (市・町教育委員会の受け止め)

1. 連携協力校で実習を行うと同時に共同研究を推進していくことについて
 - 連携協力校(実習受け入れ校)の活性化が図れると同時に、所管の全学校により影響を与える・・・78%
 - 大学から新しい教育情報が入手できる・・・44%
 - 管理職研修における「教職員の資質・能力の向上」について課題を提供してもらえる・・・44%
2. 市・町教育委員会として教職員の資質・能力の向上への取り組みの実態
 - 初任者研修の充実
 - 全教職員対象の研修(講演形式)の充実
 - グループ研修の充実
 - 市・町教育委員会教育研修所のカリキュラムの充実
 - 管理職研修の充実

- 大学と学校教育現場との連携に関する調査(3) - (現職教員派遣教育委員会の受け止め)

- 大学院派遣を人事管理と教職員の職能開発と位置付けること
ある(3件・11.5%) ない(15件・57.6%)
その他(8件・30.7%) 検討の可能性あり
- 修了生の処遇の在り方
現職教員以外の学生
給与上の優遇措置(1件・3.8%)
その他(22件・84.6%) 検討中・検討予定
現職教員
・法令が改正された場合、10年経験者研修の免除(1件・3.8%)
・給与上の優遇処置(1件・3.8%)
・主幹職などのミドルリーダー的職位への優先登用(1件・3.8%)
・その他(20件・76.9%) 今後の検討課題

結 論

- **連携協力校**は、**教職大学院の実習や共同研究が学校活性化への動機付けや支援になると期待。**
- **県内市町教育委員会**は、**山積する現場の問題・課題への一つの突破口として、教職大学院で養成されるような専門性が必要だと認識。また、大学から、教育に関する最新情報の入手ができる**と期待。
- **都道府県・政令指定都市教育委員会**は、**教職大学院に対するニーズは高いが、条件整備については前向きではあるが検討はこれからである。**